

ってることは同じなんですけど、結局ただそれだけに大変厳しいというか、難しい状況なんだということは一致してるわけです、考えとしては非常に難しいと。何をやるか、どういうふうにするか、もう今難しい、そういう時代だということでも申し上げてるんです。だから、それだけにいろんなことやるにもすごく慎重に検討しなきゃいけない部分もあってということをおっしゃるわけでも、全て何もやらないでとにかくやれねんだという姿勢でいったら全くダメなのはそれとおおりですから、しかし、その中でも集中して何をやるかということをおっしゃるのにも、議論が要って大変だと、難しいと、先を見ながらやらなきゃいけないという、そういう時代だということをおっしゃる私どもは考えながら、いろんな立場でこれから検討していかなくちゃいけないんじゃないかということをおっしゃるわけでも、ぜひこれは第5次総合計画が出ましたら、またいろんな面で議論させていただきたいというふうにおっしゃる。

それを申し上げながら、以上で質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

竹田博一議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位9番、議席番号6番、竹田博一議員。

(6番竹田博一議員登壇)

○6番 竹田博一議員 よろしくお願ひします。

6月定例会に当たりまして、通告してあります2件についてご質問申し上げたいというふうにおっしゃる。

最初に、これからの観光振興計画についてお伺ひします。

4月のさくらまつり、黒獅子まつり、そして白つつじまつり、そして、もうすぐあやめまつ

りが開園いたします。そして、牛肉まつり、水まつり、長井おどり、はぎまつりなどなど、お祭りは長井市にとって重要な観光であります。祭りやイベントが成功するか否かで観光の価値も大きく変わります。

さて、平成25年度から平成34年度までの10年間の長井市観光振興計画が出されました。本市も平成21年に人口3万人を割って以来、人口減少に歯どめがかからず、地域経済の低迷の心配が現実的になってまいりました。少子高齢化、そして長井ダム完成による職員の撤退、東芝ライテックの長井市からの撤退により、ますます人口減に拍車がかかりました。今まで東芝ライテックで仕事をしてきた人は、生活のために年老いた家族を残し、夫婦子供ともども、鹿沼工場に勤めるため離れなければならないことの現状を思うとき、断腸の思いではなかったのかと思うと、お気の毒の何物でもありません。

観光振興計画の基本方針は、市民が自慢できる観光まちづくりとあり、経済効果に12億円増、観光客数20万人増、そして主たるターゲットは中高年や子供というふうにあります。なぜ若者をターゲットから外したのか理解できません。観光は年寄りから子供まで万民を対象にしなければならないと思いますが、どうですか。これからの10年間、これまでとどう変わっていく計画なのかお伺ひします。

次に、観光施設の充実とともにPRが重要ではないかについてお伺ひします。

言うまでもなく、観光産業で大切なことは、お客様においでいただき、食事をとってもらったり、お土産を買ってもらったり、宿泊をしてもらったりすることです。そして、よかったですのでまた来年も来ようと印象づけることに尽きると思います。長井の観光を知ってもらうためのPRの取り組みについてネット情報発信等がありますが、いま一つ不十分な気がします。お客様においでいただくための取り組みを具体

的にお伺いします。

また、観光施設の老朽化、とりわけあやめ会館については、点検の必要があると思います。お客様へのおもてなしなどからも大変重要なことだと思いますが、そのお考えをお伺いします。

次に、長井市独自のマスコットキャラクターをつくり、祭りやイベントを盛り上げてはどうかについてお伺いします。

今、全国的にご当地キャラとかゆるキャラでイベント、祭り、各種のキャンペーン、地域おこし、各名産品の紹介などのような地域全般の情報PRなどにマスコットキャラクターが大活躍しています。

ゆるキャラ3カ条として、郷土愛に満ちあふれた強いメッセージ性があること、立ち居振る舞いが不安定かつユニークであること、愛すべき緩さを持ち合わせていること。長井市でも商工会議所が馬肉からヒントを用いてバーニク・ナガイで活躍しています。ほかの自治体では、米沢市のかねたん、山形市のはながたベニちゃん、寒河江市のチェリン、東根のタントくん、朝日町の桃色ウサヒなどなど、いろいろなゆるキャラがあります。何ととっても祭りやイベントにはお客様が大勢参加することは不可欠であり、特に子供はゆるキャラに興味を示してくれると思います。子供が参加することで大人も参加してくれるでしょう。

長井市でも広く募集をしてマスコットキャラクターをつくり、小さな子供たちのアイドルに成長させ、祭りやイベントを盛り上げるべきだと思いますが、ご所見を伺います。

次に、土曜授業についてお伺いします。

ゆとり教育とは、日本において知識重視型の教育方針を詰め込み教育であるとして、学習時間と内容を減らし、経験重視型の教育方針をもってゆとりある学校を目指した教育のこととあります。ゆとり教育は、その目的が達せられたかどうかを検証できない状態の中で、詰め込み

教育に反対していた日教組や教育者、経済界などの有識者などから支持されていた一方で、それを原因として生徒の学力が低下していると指摘され、批判されるようになりました。

学校週5日制の導入は、家庭や地域社会での生活時間を高め、主体的に使える時間をふやし、ゆとりの中で学校、家庭、地域社会が相互に連携しつつ、子供たちに社会体験や自然体験などを通じて、みずから学び、みずから考える力や豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの生きる力を育むとあります。

平成4年から段階的に実施され、平成14年には毎月全ての土曜日が休日となる完全実施となりました。その結果、賛否両論の中、土曜授業の問題が高まってきました。ネットで調べたことを紹介しますと、横浜市教育委員会が行った調査によりますと、保護者の土曜授業についての意識について、約7割の保護者が土曜授業に賛成しています。それに対して、教員の7割が実施しないほうがいいという結果でありました。

では、なぜ教員は土曜授業に否定的なのでしょう。土曜授業を実施しないほうがよい理由も複数回答で尋ねたところ、子供や教員にとって負担になるからが66%を占めました。保護者でこれを上げたのは30.4%にとどまっていますから、子供より教員自身の負担が大きいことだと思います。

各自治体で土曜授業を検討、実施しているのは、新指導要領で授業時間がふやされている中であっても、平日にふえる負担を何とかしたいという考えがあると思います。しかし、現実にはなかなか簡単にできない事情があり、夏休みや冬休みをさらに削るのか、それとも無理をしても土曜授業をするか、それが現状であると思います。

長井市教育委員会では、今まで土曜授業についての話し合いは行われたことがあるのかお伺いします。教育委員会としては、実施校の成果

と課題の把握、つまり実施校及び区市町村教育委員会の訪問による聞き取りを行い、調査する必要があると思います。そして、本市の小中学校の保護者への土曜授業についての意識調査が必要であると思われますが、教育長の考えを伺います。

以上で、壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 竹田議員のご質問にお答えいたします。

竹田議員から私のほうには、これからの観光振興についてということで3点ご提言をいただきました。

1点目の今までとどう変わっていかねばならないかということで、議員のご質問の趣旨というのは、あやめ公園の入園者も減ってるし、あやめ会館も古くなっていると。また、白つつじでは雪による被害がなかなか厳しいと、桜でもその被害など難しい状況にあるので、それらの改善はもちろんでございますが、今までと違った取り組みが必要ではないかということでございます。

竹田議員のご指摘のとおり、どういうふうに変わっていかねばいけないかということは、観光にとって非常に重要なことだと思います。例えば山形鉄道のほうで観光客を新たに、ここ3年、4年と誘致してるわけなんですけど、やはり山形鉄道の社長のお話をお聞きしますと、同じ企画ですとどんどん減ってくると。いわゆる同じものですとリピーターがあればまた別なんですけど、リピーターがなかなか難しいそういう観光資源ですと、当然観光客がどんどん減ってきますよということでありますので、竹田議員の視点といいますか、それは非常に重要だと思います。

これまでの長井市の観光を一言で表現しますと、竹田議員おっしゃったようにお祭り、イベ

ント観光だということだと思っております。そこについては、昨年度に策定した観光振興計画でも、そこからの脱皮が必要だと。もちろんお祭り、イベントも、これはお祭りとか観光の一つのハイライトとして重要でありますけど、常時お祭りをやってるわけにはいきませんので、したがって、さまざまなそれ以外の魅力アップということが重要だと思っております。

そんな中で竹田議員からご指摘あったのは、年間20万人の観光客をふやし、12億円の経済波及効果を高めていくと、しかし、主たるターゲットというのは中高年と家族、なぜ若者が入っていないかということでございますが、これは観光振興課長のほうからも詳しくあるかと思えますけれども、現在、国内旅行の主たる客層というのは、圧倒的に中高年でございます。若い人たちは、例えば最近ですと山ガールとか、その前は歴女とか、あと鉄女とか、そういうふうの一つのテーマごとに若い女性の皆さんが集中して大挙して押し寄せたということもありました。しかし、それでも一部であって、圧倒的にはやはり50代、60代、70代の中高年の方々が地方のいろんな観光地、景勝地を訪れているというのが今の実態であります。

したがって、例えば長井の観光のターゲットを若者向けのターゲットに合わせているんな取り組みを行いますと、中高年とか家族連れには合わないというふうになってしまう。そうしますと、非常に不人気のやはり観光地ということになってしまうおそれがあります。したがって、そういう全国的な、特に山形県とか東北の観光地への統計上などから、中高年と家族というものをターゲットにして事業計画を展開する必要があると、それがまず主たるターゲットだということに考えているというふうに思っております。

やはりイベント型観光から何とか通年型観光へということ、また、一つの点の観光から線、

面ということ、そして、点から面に移って、またそれだけじゃなくて、そこにストーリーを、層を重ねるという考え方がこれからの観光では不可欠であろう。いわゆる長井の物語を訪れた人たちに理解してもらわないとだめだと。ただ物見だけではだめだと。あるいは、食事もただおいしかったねというだけじゃなくて、そこにある、なぜこういう郷土料理ができたかという歴史とか地域の人たちの生活、風習、そういったものを感じられる、そういった観光でないトリピーターは来ないというふうに言われておりまして、それらをいろいろ勘案して観光振興計画はつくっております。

ただ、まだまだ実施計画として取りまとめていく必要が多々あるというふうに思っておりますし、今同時に進めておりますのは、いわゆる観光プラットフォームづくり。ちょっとプラットフォームづくりというとなかなかわかりにくいかもしれませんが、例えばタスに泊まったお客様、これビジネスのお客様でも、あるいはたまたまあやめをごらんになって、時間があるのでじっくり長井を見たいということで長井のタスに泊まったお客さんがいらっしゃるとしますと、そこでタスのほうでただホテルと、あるいは食事の案内、タスの中のホテルの案内とかお土産の案内だけではなくて、あやめ公園以外のいろんな観光施設であったり、非常にぜひこれは見ておくべきだとか、ここのお土産はすごくいいお土産そろっているとか、あと、長井に来たらぜひ馬肉を食べてほしいとか、そういうネットワークをきちんとつくっていかうと。それが簡単に言えばプラットフォームづくりであります。

したがって、それを行政とか観光協会がお願いしてつくっていくというんじゃなくて、ぜひ観光客にお越しいただきたい民間事業者も含めて、そういった人たちとネットワークをきちっと築いていかうという仕組みづくりです。これ

はなかなか言うはやすく行うはかたしで難しい部分がありますんで、こういったところをこれから長井の観光を変えていくために努力して構築してまいりたいと思っております。

2点目の観光施設の充実とともにPRが重要ではないかということですが、これも竹田議員がおっしゃるとおりでございます。PRがないとやっぱり観光客は知らないわけですから、これは非常に重要でありますけれども、一方で例えば私ども市のレベルでの観光といいますと、全国の自治体というのは1,700ぐらいあるわけですから、そこに都道府県も入るわけですから。そうしますと、そういったところが同じようにPRしてるわけですから、どういふふうにして話題づくりをするかということでもあります。手取り早いのは、例えばテレビのCMをつくったりとか、あるいは番組制作をして、1回2回流しただけではだめですから、いろんなところで、例えば今、あやめの時期でしたら、かつてやりましたように仙台とか新潟とか福島とか、そういったところにテレビ放送局のスポットCMを時間を買いまして繰り返し繰り返し流すとか、あるいはキャンペーンとして、昔は仙台のほうに長井おどりの先生方が大挙して行って、駅前まで踊って長井おどりと同時にあやめをPRしてきたとか、そういうことがございました。また、キャラバンといいまして、観光協会の職員と市の職員が主に東北の各県の放送局とか新聞社を回らせていただいて、ぜひ取り上げていただきたいということでご協力いただいたりとか、そういったことをやってきたわけですが、こういった全体的なパブリシティといいますか、そういう考え方が残念ながら行政では非常に難しいのかなと、そんなことで、これはその次のゆるキャラにもつながってまいります。民間の広告代理店とか、そういったところと連携しながら、何でしょうかね、プロモーション活動を行っていくということがやはり正面からのPR

くなって、補充学習であるとか発展的な学習などをする時間の確保もなかなか難しいというのも課題となっております。

長井市の子供の学力の状況は、全国標準学力検査、NRTと呼んでおりますけれども、その結果によると、全国平均か、あるいはそれ以上の学力を身につけておりますけれども、今後もより高い学力の維持向上に力を注いでいきたいというふうに考えております。

議員が横浜市の例を引いていただきましたけれども、都市部のほうでは東京都を中心に、年間6回以上の土曜日を授業日にして授業時間を確保したり、あるいは体験活動を充実させているといった、そういう先進的な取り組みを行っているところがふえてきております。ただ、山形県とかこちらのほうでそういう例がないというのは、実は課題として法に定められている職員の勤務時間、週当たり40時間というのがございまして、そういう問題を解決するには代休日をまとめどりするような方法もあるわけですが、その代休をいつまでにとらなきゃなんないといった、それが県条例で定められておりますので、夏休みにもしまとめどりすることでありましてと条例の改正を待たなければならぬということがありますし、あと、代替教員を確保するという方法もあるかと思いますが、それには莫大な予算を伴うということで、なかなか市単独で対応し切れない部分もあるんでないかなというふうに思っております。これから県の、あるいは国の動静を見ながら対応が必要になるんでないかなという、そういうふうに思っているところであります。

議員のほうから教育委員会として問題を積極的に話し合う必要があるのではないかとということで、これまではそのようなことで取り上げて、この問題について絞って話し合った、話題には出たことはあるんですけども集中して協議したということとはございませんでしたので、今後先

進地の視察などもぜひさせていただいて、その上でまた保護者の意識なども、あるいは意見なども伺うなどして、ぜひ前向きに検討していきたいというふうに思っております。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 竹田議員からのご質問にお答えさせていただきます。市長から概要について既に答弁がありましたので、私からは細かな点についてお答えしたいと思います。

まず、1点目の今までとどう変わっていかなければいけないかというようなことについては、観光振興計画の策定委員会でお話をちょっとご紹介させていただきたいと思っております。この中でいろいろご意見をいただいたわけですが、その中でも一番際立った意見としましては、イベント開催を長井市ではずっとやってきていたところ、イベントを開催するだけではだめなんだと、やっぱり通年でお客様に来ていただくことが一番だよというようなご意見をいただきました。うちのほうの長井市では、先ほど議員さんからお話あったように、さくら、つつじ、あやめ、黒獅子、花火といろんなイベントをやってきて、それを成功させるのがうちのほうの観光振興課の使命と思ってやってきておりましたけれども、それだけではだめですよ。お客様に来ていただいて、しかも通年で来ていただいてまちなかにお金を落としていただく仕組みづくりと、それが非常に大切なんだというふうなことで、イベント型の観光を脱皮して通年型の観光へと。もちろんイベントも大切なわけですが、それを両立していかなければいけないよというようなことを委員の方から教えていただいたと思っております。

あと、委員の方から強く出された意見としましては、まちづくりに関係することで、人材や組織の面でプラットフォームという組織をつくりなさいと。観光まちづくりプラットフォームというのは、各団体、各組織、あるいは個人、観光

にかかわるいろんな人が一緒になってそれについて話し合い、そして決定していく場というようなことをごさいます。そういった場をつくって、これから進んでいかなければいけないよというようなことをごさいます。これは言うのは簡単ですけども、先ほど市長からあったように実行するのはかなり大変なことかと思ひます。これについて、今年度から早速取り組んでいきたいと思ひておひます。

あとそれから、主たるターゲットに中高年と家族というふうなことで、若者が入っていないんじゃないかというご指摘でござひました。これについてなんですけど、もちろん委員の人からも、若者も大事だというような意見を伺ひておひます。ただ、主たるターゲットというふうになりますと、先ほど市長からあったように、現在の中高年層の影響力というのは非常に大きいものがござひます。50代以上が全部中高年というふうなことで、人口も非常に大きい割合を占めているわけですし、以前の中高年と今の中高年の層は元気さが違うというか、行動力が非常に違うようになってきておひます。例えばレジャー白書の2007年の50歳以上の中高年層の観光参加動向を調べたところ、登山については参加者の59.8%が中高年、国内旅行では参加者の50.5%が中高年、催し物、博覧会につきましても53.8%が中高年というような結果が出ておひます。中高年の方につきましても確かに時間的にも経済的にも余裕が出る年代でござひますので、そういった点で中高年を無視してはいけないというようなことで、あえて主たるターゲットとして中高年というふうなことが載っておひます。

あと、2点目の観光施設の充実とともにPRが重要ではないかということをごさいます。これはごもっともなことをごさいます。

ことしの4月から、観光専門のポータルサイトを立ち上げまして、現在そのアクセス数ですけども、4月からのトータルで約18万件とな

っておひます。このポータルサイトにつきましても、いろんなどころとリンクを張って、利用者が観光情報を得やすいように工夫していききたいと思ひておひます。

以上でござひます。

○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 それぞれの答弁、ありがとうございました。

観光振興課長にお伺ひしますけども、平成9年から15年間であやめ公園の入場者が5分の1になったというふうを書いてありました。5分の1と一言に言うけんども、かなり人も大変な激減だなどいうふうに思ひます。私が小さいころ、あやめ公園に行ったころは人だらけで、もっともあのころはサーカスとか、それから何か見せ物みたいな、今はちょっと見せてはいけないような見せ物があったんです。かなり人混みで、そろそろそろそろと歩くにも大変だったような子供のころ思ひ出があります。今は全くそういうことがなくなってしまつて、あやめ見る人は大変いいように見られるんですけども、何となく寂しい感じがいたします。

今、観光はそのときばかりじゃだめだと、通年型の観光じゃなきゃだめだというようなお話でありましたけども、例えば通年型の観光といひますとどんなものがあるか教えてください。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 お答へします。

通年型の観光としましては、一番わかりやすいのがまち歩きかなと思ひておひます。つまり、例えば長井駅から始まる歩くコースを用意しまして、それに皆さん参加してくださいって募集します。集まってきたいただいた皆様についてガイドさんを通じて、例えばあやめ公園を歩いたらその後、丸大扇屋さんに寄つて、長沼彫塑館に寄つてというようなことでの、そこからほかの商店にも寄つてということで、まちを歩いて商店街のところにお金を落としていただく

というようなこと、そのときだけに限らず通年でできる催し物というようなことで、いろいろ今研究しております。この辺でよろしいでしょうか。

○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 何か趣旨はわかるんですけど、現実的に本当に通年型で混雑するほどとか、お客さんがいらっしゃるかどうかが、甚だ疑問であります。それよりも、イベントとかあやめ公園、つつじ公園、いろんなお祭り、お祭りを盛り上げるほうが手っ取り早いんじゃないかというふうに思ったところです。

あやめ会館のことをさっき質問しましたが、市長にお伺いしますけど、あやめ会館が大分傷んできまして、あそこで食事をしてくださいっていうのはなかなか気の毒なような、施設老朽化しています。それで新築あるいは改築などが必要と思われそうですが、その際、このたび市長が言っておられます都市再生整備計画というのに関連づけられるか否かお伺いします。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 あやめ会館を都市再生整備計画の事業として改築、新築するということは、事業としては成り立つと思います。ただし、あやめ会館というのは今あやめ公園の中ですから、あそこのあやめ会館をつくることだけで観光交流客をふやせるかというのと、やっぱりちょっと仕掛けが必要なのかなというふうに思っております。都市再生整備事業よりも、都市公園の長寿命化計画というのを昨年からことしにかけてつくっております、その中であやめ公園の改造と含めてあやめ会館を、これも補助事業で5割、6割補助でつくれるのではないかとということで今その素案を検討しているところでございます。そういったものでやったほうが、単品としてやったほうがいいのかというふうに考えているところです。

○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 観光客をお招きするにも、ぜひきれいなところで食事をしていただいて、よかったなというような印象を持てるようお願いしたいというふうに思います。

それから、お祭りにはお酒がつきものだというふうに思います。去年の黒獅子は結構振る舞い酒というか、酒を何か飲ませたりなんかするのが結構あったんですが、ことしは余り酒の振る舞いというか、それがちょっとなかったような気がします。何となくやっぱりお祭りと酒というのは合うんですね。それで、何か物足りなく感じたわけでございますけど、何か理由があったのか何か、ちょっとわかりませんので教えてください。

○小関勝助議長 どなたですか、答弁、わかる人。じゃあ、鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 特に理由はないかと思っております。今回たまたまそういう結果になったということだけだと思います。今度のあやめのおきも、オープニングにつきましても鏡開き予定して、振る舞い酒をするかと思っておりますので、どうかよろしくお願いしたいと思います。

○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 次に、マスコットキャラクター、ゆるキャラについてお伺いしますが、やっぱり今はやりですので、そのはやりに乗るのも一つの手じゃないかというふうに私は思うところでありますけども、さっき市長が言いましたように黒獅子のキャラクターとか、それからあやめの花の人形にしたキャラクターとか、名前とか、それから格好を募集すれば、かなりいろんなキャラクターが選べると思います。私はほかの自治体にないものと言え、やっぱり黒獅子まつりの黒獅子かレインボー君などがちょっと浮かびますが、それは応募していただいて、かなりいいキャラを見つけることがいいかなというふうに思います。ぜひ募集をしてくれるといいと思いますが、いかがですか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ちょっと出遅れた感はあるんですけども、まずマスコットキャラクターをつくってどういうふうにしてまちづくりとか観光振興に役立てるかというところの趣旨をしっかりとつくった後で、やっぱり議員がご提案のとおり、これは公募等々でやっていきたいと。テーマについては黒獅子がいいのか、あやめがいいのか、レインボー君がいいのか、バーニックがいいのか、その辺などもやはりいろいろ検討しながら、出遅れてもやっぱりやるべき価値は十分あるというふうに思いますので、検討してまいります。

○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 ぜひ募集をするようにお願いしたいというふうに思います。

次に、教育長にお伺いします。

土曜授業を実施したほうがいいというような教員の考えを聞きますと、平日の6校時目を土曜日に持ってくると。そうすると、振り分けると子供や教員の平日の負担を減らせるんじゃないかというような考えもあるようでございますが、やるやらないは、まずこれじっくり考えていいと思いますけども、東京都の教育委員会のほうから調べた結果ですが、1学期に1回というのが55%ぐらいだそうです。主に授業参観日に土曜授業に用いるというようなことでございますけども、月に1回というのが24%、月に1回から2回が15%、月に2回というのが3%ということでございまして、でも年を追うごとにだんだんと土曜授業をする小中学校がふえているというようなことであります。

教育委員会としては、実施校の成果と課題の把握をぜひ訪問による聞き取り調査をしていただきたい。そして、何よりも市内の保護者がどう考えるのか、土曜授業に賛成なのか反対なのか、何%の保護者が賛成なのか、やっぱり教育委員会としては調べておく必要があるんじ

ゃないかというふうに思います。その点についていかがですか。

○小関勝助議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 竹田議員が東京都の例をお示しいただきましたけども、私もネットのほうでちょっと見せていただきますと、特に墨田区教育委員会あたりが積極的に取り組んでおられるようですので、ぜひ一度教育委員の中で見せていただくということの機会をとらせていただければありがたいと思いますし、それから、保護者の意識についても、全国の抽出調査などの例もベネッセ等で集めて出されておまして、その中では、毎週土曜日してほしいというのが一番多いんじゃないかと、一番多いのが隔週とか月2回ぐらいの土曜日授業を希望すると、そういった意識が一番高いなどというふうに見せていただいたところであります。

ただ、長井市の保護者がどうなのかということは、そこはまだ把握しておらないわけでありまして、学校評価で各校では保護者アンケートをしておりますので、そういった機会にそういった項目なども共通して入れさせていただいて調査するということが可能かと思っておりますので、これから取り組んでまいりたいというふうに思います。

○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 今度小学校でも英語の授業というのが始まる、設けているそうでありますけど、だんだんと授業時間が、授業時間というか授業する時間が多くなって、平日ではこなすのが大変だというようなことになると思われますので、ぜひさっき教育長がおっしゃったように、月に1回とか2カ月に一遍でもいいですから、やっぱりそういうことをすれば生徒も教員もお互いに負担をなくすんじゃないかなというふうに思います。ぜひ市内の小中学校の保護者に対しての意識調査をお願いしたいというふうに思います。

以上で私からの質問を終わります。ありがとうございました。

散 会

○小関勝助議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 2時53分 散会